

女子美と学生を応援
保護者と教職員の会

一ヶの会

活動報告 会長挨拶・定期総会・懇談会
10周年記念 記念式典・講演・祝賀会
座談会 10周年記念 歴代会長座談会
PICK UP 各専攻・領域・コース前期授業の様子
学生生活 入学式・球技大会・女子力展
お知らせ 記念式典・講演・祝賀会

TENTH



ごあいさつ

ニケの会では、懇談会やニケカフェ等を通じて保護者の交流を図る活動や、学生への支援となる活動を大学と連携しながら実行しております。保護者の皆様が関心をお持ちの女子美生の日常や留学・進路・就職についてお伝えすると共に、直接先生方に悩みや質問を受け止めていただく貴重な機会である懇談会は、御参加の方々から御好評をいただいております。

ニケの会とは、杉並キャンパス中央に建立されている勝利の女神ニケ像からその名を取っています。今の時代のさまざまな荒波を乗り越え、新しい世界に向かい羽ばたく女子美生を、会員である保護者の皆様が見守っていくという

意味がこめられていると承知いたします。2009年の秋に正式発足して以来、今年で10周年を迎えます。

これからもニケの会は、保護者として我が子の成長を応援するだけでなく、「新時代を切り拓く強さと柔軟で純粋で豊かな感性を持つ人材育成」の一助を担うべく支援していくことを目指します。皆様の御理解と御協力をよろしくお祈りいたします。

女子美術大学ニケの会
会長 茂木 雪子

令和元年度「総会」・「懇談会」報告

総会

令和元年6月1日(日) 女子美術大学 杉並キャンパス 110周年記念ホール



女子美術大学 ニケの会「総会」を杉並キャンパスにて開催しました。全国から多くの会員が集まりました。平成30年の活動報告・収支決算報告および令和元年度の事業計画・収支予算、令和元年度の役員が承認され、新会長をはじめ本部役員が紹介されました。

令和元年度ニケの会役員一覧

役職	氏名	学生専攻・領域・コース
会長	茂木 雪子	アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域
副会長	中野 晴美	デザイン・工芸学科プロダクトデザイン専攻
副会長	田中 賢仁	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
副会長	三浦 良夫	総務企画部長
庶務	川島 道子	博士前期課程デザイン専攻メディア
庶務	川窪 道子	美術学科洋画専攻絵画
庶務	山口 則子	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
庶務	山越 幸子	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
庶務	杉本 好重	アート・デザイン表現学科アートプロデュース表現領域
庶務	円満字 千代佳	アート・デザイン表現学科メディア表現領域
庶務	小川 弘子	造形学科デザインコース
会計	吉田 真理	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
会計	中村 澄子	デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻
会計監査	増田 久美	博士前期課程美術専攻立体芸術
会計監査	白井 三映子	美術学科洋画専攻絵画

教員との懇談会

令和元年6月1日(日) 女子美術大学 杉並キャンパス 110周年記念ホール



令和はじめての「教員との懇談会」を開催しました。6月1日より学長になられた小倉学長より挨拶がありました。



懇談会報告 地区懇談会

学生生活・就職の支援体制の説明の他、開催地区で働く先輩(同窓生)より、学生時代や就職活動、現在のお仕事の様子などの話をいただいております。全ての会場に教職員が伺います。



東海地区懇談会
2019年7月6日(日) ウィンクあいち



甲信越地区懇談会
2019年7月28日(日) JA長野県ビル



中国・四国地区懇談会
2019年9月14日(日) ひろしま美術館

開催日
11/9 日

① 記念式典 14:00~14:40 杉並キャンパス 7号館2階7201教室



② 記念講演 15:00~16:30 杉並キャンパス 7号館2階7201教室 (無料)

「美大を出るとなにかができるの? - 三姉妹は三人三様 -」

美大で学べること、卒業後の進路、キャリア形成について三人三様に語ってもらいます。
保護者の皆さまと学生達にとっても、もっとも興味深いところをお届けできればと思います。

ヤマザキ ミノリ

1978年 東京芸術大学工芸科鍍金専攻卒業。1980年 同大学院構成デザイン修了。2019年3月 女子美術大学アートデザイン表現学科ヒーリング表現領域教授定年退職。6月より女子美術大学名誉教授。造形作家、空間演出デザイナー。個展、企画展多数。東京芸大一年の時に考案した小さな立方体万華鏡キューモスから創作活動が始まる。単純なのに複雑、透明で根元的なイメージのある造形を追求。鏡の無限反射を応用したライトアートオブジェや空間演出デザイン、パブリックアートなどを手がけている。CUMOSがきっかけの一つであるユニバーサルアート立方体万華鏡ワークショップの普及もテーマ。

三女 シシヤマザキ

2013年東京芸術大学デザイン科卒業。同大学院映像研究科アニメーション専攻修了。アーティスト。水彩画風の手描きロスコープアニメーションを独自の表現方法として確立。Chanel、PRADAや資生堂などのブランドのプロモーションイメージの制作を担当し、世界的に活躍している。オリジナルアニメーション「YA-NE-SEN a Go Go」(2011)、「やまさき、やまざき」(2013)は国内外問わず数多くのフェスティバルで上映され、反響を呼ぶ。2018年には、Forbes 30 Under 30 Asia list - Class of 2018 に正式に選ばれる。ライフワークとして一日一個の顔「MASK」を毎日作り続けるプロジェクトも行う。(2010~現在) 2017年よりクリエイター集団「1980 YEN」(イチキューパ)のメンバーとして楽曲制作や各地でのライブパフォーマンス、アートプロジェクト等を行っている。

次女 ヤマ ひかり

2010年女子美術大学デザイン学科 VDコース卒業。在学中に若手アーティスト発掘プロジェクト、digeoutのオーディションを通過したことがきっかけでアーティスト活動を開始。東京や大阪で個展を開催。アクリル絵の具やカラーペン、水彩絵の具を使用し、セクシーな女の子や不思議なキャラクターを描く。一般企業でグラフィックデザイナーとしても働いており、これまでの業務経験は、アプリのUI、キャラクターデザイン、バナー広告、WEB、DTPなど。

長女 堂守 あかり(旧姓 山崎)

2003年女子美術大学付属高校卒、2007年女子美術大学絵画学科洋画専攻卒、DTPオペレーター兼デザイナーとして主に家電量販店、スーパー、食品メーカー等の店舗販促物作製に関わり2012年退職。現在、わんぱく4歳男児の母。

③ 祝賀会 17:00~ 杉並キャンパス 学生食堂 会費 2,000円 (当日支払い)

お申し込み専用フォーム

申込み締切 11/5 日

<https://forms.gle/LReuPSfJuWgcrU2y9>





座談会

ニケの会は、2019年に設立10周年を迎えます。

これを記念して歴代の会長にお集まり頂き、

オール女子美としての活動について、お話し頂きました。

芸術を学び成長する子どもへの愛情と、

ニケの会の活動を通じて、ご自身の世界が広がり、

仲間を得たことの喜びが伝わってくる時間となりました。

きっかけは、娘たち。 でもいつのまにか、 自分の財産となる活動になっていった。

鈴木 私は、初代会長を務めさせて頂きました。建築事務所環境デザインの仕事をしております。娘が卒業してから6年で、彼女はランドスケープの事務所助手をやっています。

吉村 私は、2代目会長でした。女子美の工芸を昭和55年卒業しましたが、自分が通っていた当時より娘が在学していた10年の方が楽しかったです。先生とお話する機会も多く、今の女子美が好きです。ファッションの仕事で自分の会社を30年やっているのですが、色や素材のことに活かされていますね。

饗庭 3代目の会長をやらさせて頂きました。大学から娘が女子美に入りました。自分は美術に関わりがなかったので、娘についていき、彼女のさまざまな経験を通じて、多くの学びを得ました。先生にお会いして交流することが、私にとつての財産となっています。美術を身近に感じることができるようになりました。

小早川 私は4代目会長です。娘は大学院の立体芸術を修了しました。彼女の変化をみていると、4年生までは女子大生だったのですが、大学院に行って一人の芸術家になったと感じます。朝から晩まで制作している。いい面も悪い面も含めて、自分ができなかったことが、娘の中にあることを嬉しく感じています。女子美の先生が、作品を否定せず認めてくださったことが、彼女の成長に大きく影響したと感じています。

茂木 6月1日から新会長として活動しております。娘は現在4年生で、ファッションテキスタイルを学んでいます。もともと付属中学校からずっと女子美です。娘は口下手なので、学校のことがさっぱりわからず、とても不安だったので、中1から父母の会の役員をさせて頂きました。娘は話してくれませんでした。女子美には、自分の絵が上手でも下手でも関係なくお互い助け合い、認合う文化があることを知り、とても安心することができました。

10年前の創設期には、 大学の父母の会のあり方について じっくりと話し合いの時間を持った。

鈴木 当時の大村智理事長が、大学には父母の会がないので、付属も含めオール女子美というコンセプトで作りましようというお話が、平成20年の春頃ありました。そこで、何故必要なのか、どんな会をつくりたいのかということについて、付属の父母会のメンバー10人くらいで話し合いました。「ニケの会」という名称は、佐野ぬい学長が命名されました。正式な設立年度は、平成21年10月25日。最初は会費6,000円の有志の会でした。初期は、まずこのニケの会を知って頂くための活動として、付属への広報活動をしていました。

吉村 教学事務部の鈴木昌美さん、理事の佐藤善一先生などが、ご尽力くださいましたね。それから退職者の会と教職員の会もニケの会に加わってくださり、オール女子美という体制になりました。

饗庭 その後、任意の会から父母全員が加入する会になり、私の会長を務めた年が、全員会員の完成年度を迎えた年でした。

鈴木 初期は学校側の思いと我々の思いに差があったと思います。親としては、大学になっても娘の学校に関わるのは、どうなのか、という考えがありま

した。なにしろ手さぐりだったので、他の学校のことを聞いたり、調べたりして会則を作り、学生への支援の仕方みんな考えていきました。

吉村 会報誌は、3号までは手作り。月に1回、突撃レポーターという企画をやりましたね。1号は校友室、2号は学生と橋本先生。地区懇談会はあくまでもPRで、平成22年は広島と福岡に行きました。先生方とニケの会のメンバーで訪問しました。所属研究室をお願いして参加者の娘さんの作品集をつくっていったら、とても良かったと言われました。

吉村 昨年、ニケの会では設立後初めて韓国で地区懇談会が開催されましたね。たまたま仕事でソウルに行っていたので顔を出させていただきましたが、ご夫婦での参加が13組もあって驚きました。子どもたちは自立していくのですが、親の不安を涙ながらに語られたことは、言葉や文化の違いはありますが、通じ合うものがありました。日本に留学経験のある親御さんは、喜んでいたことも印象的でした。友人、授業、就職についていろいろなお話しをして、安心されていました。大学としてこういうフォローができることは、とても大切なことだと思います。

女子美は、入った時より出る時の満足度が高い学校。 学生も親もニケの会を活用して いろいろな情報を得て欲しい。

吉村 親同志の心のつながりということでは、オープンキャンパスや女子美祭での活動がありますね。ニケの会としての学生支援を考えると、展覧会支援ですと限られた人だけに提供することになるため公平でないので、かなり役員会で議論しました。そこでクリスマススイーツという案が出て、食堂で学生にケーキのプレゼントをしました。

小早川 吉村さんが会長時代に入学式に「女子美手帖」をプレゼントしましたね。あれは学校行事が記載されているので、とても喜ばれました。本当に子どもが大学でありながら、親同志の交流が図れて身近に感じることができるといいですね。

饗庭 杉並で開催されるニケの会の「教員との懇談会」には毎年1年生の保護者をはじめ多くの方が出席されます。大学からの協力もあり、すべての研究室の先生や学生部長、キャリア支援センター長が参加され、直接お話を聞くことができる特別な機会です。学生の作品や授業の様子を紹介した企画も好評でした。特に地方の父母の方は、就職のことを心配されているので、キャリア支援センターの方から学生の就職活動などの情報について詳しくご説明いただきました。また、地区懇談会では、各地域で活躍されている卒業生の多面的なお話が聞けたことも大変良かったです。地元同窓会支部や現役学生、新卒の人の話など盛りだくさんでした。ニケの会のメンバー同志の仲の良さもあって、地方での懇談会は合宿のようです。山梨で実施した時に参加した方からも、お友達ができて楽しいと言って頂きました。女子美祭にはご夫婦で参加される方もいらして、役員さんと顔見知りになると、その後は継続して参加して下さるようになりますね。

吉村 今、少子化の時代になっていますが、美術の世界は、女子の進路として多くなっているようです。女子美は、純粋に作品に向かいあえるとても良い場だと思います。下の娘などはプレゼンテーション能力があまりなかったのですが、大学と大学院の6年間で大変鍛えていただきました。自分自身も感じていることですが、女子美は入った時より、出る時の満足度が高い学校です。女性が働くことがあたりまえの時代になったからこそ、自分の作品や活動に対して、親も学生も情報を得て、がんばって欲しいです。目立つ活動ではなくても、多種多様な分野でいろいろな女子美生が活躍していて、親としては嬉しくなりました。

「母がお世話になりました」との言葉に ニケの会の素晴らしさを感じることができた。 美大生の親という共通項ならではの共感と 彼女たちの魅力を応援したい。

茂木 私は、オープンキャンパスのお手伝いをして、「ニケcafé」の雰囲気良かったことが印象に残っています。給湯室で学生さんに「母がお世話になりました」と言われてびっくりしました。地区懇談会にご参加されて、楽しかったことを娘さんに話してくださったのです。親が自分の大学の行事に参加して楽しんでくれると、子どもも嬉しいと思います。今は昔より、子どもが素直ですね。自分たちの時と世代の違いを感じる時があります。ニケの会は、美大生の親という共通項で共感できることがたくさんあります。あまり子どもとのディスカッションがなくて不安だったり…。

饗庭 そうですね。就職活動についてはとても心配になってしまいます。一般大学は3年からですが、美大は違うようで、いつから何をやっていいか、わからない。1年生の時から、全体のスケジュールが頭に入れば、大体の流れをつかめると思います。やりたいことや学科によって、行きたい会社も違ってきますので、そのあたりのことは親としても把握しておきたい気持ちがあります。

吉村 就職活動と教職と卒業制作は、両立させるのが大変な事だと思います。学生支援センターにこまめに行って相談を受けると、とても良い情報ももらえるのですが、その事がわからない学生が(うちの子を含め)多いかもしれません。大学の情報を活用できる事が重要ですけど、その辺りをニケの会の保護者がフォロー出来るようになると良いですね。女子美の子たちは、群れないけれど手をつなげるのだと思います。作品に独りで向き合うことも、共同作業も出来る。独りで お弁当を食べても気にならない。そこが強みであるかもしれません。ただ、不登校に悩む親というのも多いかもしれません。作品と向き合っていると学校にいけなくなるのかも？

茂木 そういう美大の独特のところかわからない親は不安です。このままでいいのか、社会に適應できないのではないかと悩みますが、懇談会に参加すると、「うちの娘もそう!」と共感できるのです。

小早川 女子美生は、豊かな想像力、発信力、行動力を持っていると思いま

す。他大学にはない作品の華やかさを合わせ持っていると感じます。これは、学生の自由な発想への寛容さと温かいご指導のおかげだと思っています。

ニケの会は、子どもたちのため、 大学のためになることを親が楽しみながらやる場です。

茂木 娘が大学4年生なのですが、いろいろな紆余曲折ありました。そういうことを経て、ニケの会に参加させて頂いたことが、私自身にとっても子どもとの関係を築く上でとても貴重な経験でした。より子どもたちのため、大学のためになることをしたいと思い、今年、会長のお役目を引き受けさせて頂きました。

小早川 今は、仕事も生活も多様な社会になってきていると感じています。人に対して攻撃的な社会になっていくのではないのでしょうか。2025年には、人口の3分の1が75歳になると言われていて、そんな中で親御さんは子どもを育てなければならない。すごく不安な時代だと思います。でもAIにできないこととして、芸術や人間同志の関係というものが重要になってくると思うのです。芸術を学ぶことや、人間の良さみたいなものは回り道してようですが、女子美はそういうことを大切にしている学校なんです。そういうことがニケの会に参加すると見えるので、会員さんには、たくさん参加してほしいです。

饗庭 ニケの会は、親が楽しんでやっているのがいい。大学だからこそ、関わって欲しいと思います。娘さんと対等に関われる時なのだと思います。小さい時のPTA的な煩わしさはなくて、大学になると親子関係が変わってきます。子どもは子どもの世界、親は親の世界があって、でも大人同志として意見を交わせるようになります。

吉村 ニケの会の活動は、「踊る阿呆に見る阿呆。同じ阿呆なら踊らにゃ損損」という言葉がまさにふさわしいと思います。自分が、当事者として本音で付き合うとその魅力が見えるので、ぜひ参加して欲しいですね。学校側が、親に学校を公開してオープンにしている点は、女子美の特徴でもあります。行事に参加してみると、実際の学校の姿を知ることができるのです。

鈴木 みなさんのお話を伺って、設立当時の思いが繋がっていることを感じました。今回、引き受けてくれた新会長の茂木さんに感謝します。今までのことにとらわれず、その時代の会長がやりたいことを楽しみながらやって頂きたいと思います。



茂木 雪子さん
新会長



小早川 有子さん
4代目会長



饗庭 陽子さん
3代目会長



吉村 久好さん
2代目会長



鈴木 靖則さん
初代会長

美術
学科 洋画専攻
mixed-color.com



アーティストとしてのキャリア形成として、Hamee株式会社を舞台としたAIR in Hamee(アーティスト・イン・レジデンス)プロジェクトがスタートしました。最先端の商品を開発している会社とのコラボレーションとなり、約一ヶ月の制作期間はオフィスがクリエイティブ空間に変化しソーシャル・インベーションとしても注目されました。

美術
学科 日本画専攻
www.joshibi.net/nihonga



日本画1年生は、平安・鎌倉期の絵巻として有名な国宝「鳥獣人物戯画」の模写を行いました。〈上げ写し〉と呼ばれる模写の技法—高精細な模本の上で、薄手の和紙を棒に巻き、転がす要領で図像を読み取る事に挑戦し、一気呵成に仕上げられた原本の魅力である抑揚のある線の理解に取り組みました。現代日本を代表するマンガやアニメの源流をたどる授業を楽しんでいました。

美術
学科 立体アート専攻
www.s-art-joshibi.info



慶應義塾大学教授で遠山記念館の館長でもいらっしゃる遠山公一先生による特別講演「イタリア彫刻との出会い」が6月に行われました。先生とドナテルロ彫刻との出会い、空間、台座、視覚修正の話等、古代から現代までを織り交ぜた彫刻の話は90分があっという間に感じる楽しい講演でした。

美術
学科 美術教育専攻
www.joshibi.net/kyoiku



1年生は5月中は水彩画の授業を行いました。基礎デッサンからはじまり、植物や石膏像など様々なモチーフに挑戦しました。3年生は木工の授業で木のおもちゃを作成し、実際に幼稚園で園児たちにおもちゃで遊んでもらうという課題を行いました。子どもたちの発達段階とおもちゃの種類を研究し、チームに分かれておもちゃを制作します。

美術
学科 芸術文化専攻
www.joshibi.net/cac



今年も「日本文化研修」の授業として、猿若流九世家元の猿若清三郎先生にご指導頂き、1年生は日本舞踊に挑戦。自分で浴衣を着て、「潮来出島」という踊りに取り組みました。2年生は歌舞伎メイク(隈取)を体験しました。猿若先生のアシスタントとして、日本画専攻の卒業生の中西麻莉子さんが学生たちをサポートしてくれました。

デザイン・
工芸学科 環境デザイン専攻
kankyo.joshibi.net

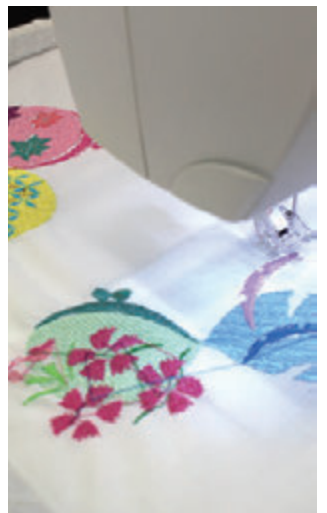


4年生の実技授業「都市のリゾート」はシンガポールのランドスケープデザイナーと共同で行っており、その研究成果発表として6月末にシンガポールで展示を行いました。展示タイトルは「心象の原宿」です。シンガポールの人々にとっても東京は興味深い都市のようで、多くの来場者の方に様々なコメントをいただき、盛況に終わりました。

デザイン・
工芸学科 工芸専攻
joshibi-crafts.net



刺繍コース3年次のマシン刺繍の授業風景です。パソコン上で刺繍データを作り、デジタルマシンで刺繍を行います。刺繍を施した生地を表紙にしたオリジナルステッチサンプル帳を、製本作業も含め制作します。日本刺繍だけでなく、マシンによる刺繍も並行して学びます。



デザイン・
工芸学科 ビジュアルデザイン専攻
www.joshibi.net/dc/visual



ブランド(業種問わず)の企画、ネーミング、ロゴを考え、最終的には紙袋に展開していく授業です。商品や広告、あらゆるデザインの意図、また誰に向けて作られているのかを常に考え、暮らしを豊かにするデザインとは何かを考えます。公開講評では、お互いの作品を見ながら意見交換することで客観性を持ち、どのようなものが魅力的に見えるのかを実感している様子でした。

デザイン・
工芸学科 プロダクトデザイン専攻
joshibi-product.com



デザイン関連の仕事に携わる際に知っておいて欲しい「エコ関連の基礎知識やエコプロダクト開発のための留意点」等を学習します。毎年、様々な企業のご協力のもと、一貫したデザイン力を養います。この課題は毎年12月初旬に東京ビックサイトで実施される、国内最大の環境展示 [エコプロ2019] に出展予定です。

杉並キャンパス

アート・デザイン表現学科 **メディア表現領域**
www.joshibi.net/media



3年プロジェクト&コラボレーション演習「かわいいロボットの提案」では、かわいいロボットを追求し企画を立て、世話の焼けるロボット・一緒に太ってしまうロボット・抱きしめてくれるロボットなどを実際に制作し、Maker Faire Tokyo 2019(東京ビッグサイト)にて展示発表を行いました。

アート・デザイン表現学科 **ヒーリング表現領域**
www.joshibi-healing.net



2年生の「ヒーリング・デザイン実習A」は前期の5週間に渡り、開講されました。前半の2週間は個人制作、後半の3週間はグループ制作を行いました。スケール模型による仮想の空間デザイン提案と、杉並キャンパス内廊下の天井空間への実寸装飾デザイン施工という2つの課題をこなしました。

アート・デザイン表現学科 **ファッションテキスタイル表現領域**
joshibi-ft.com



3年生前期「ファッションテキスタイルIA」では、アート、デザイン、テキスタイルの3課題を実施しました。アート課題では、おとぎ話の「桃太郎」を各自が再解釈し舞台衣装を制作しました。空間やキャラクターの性格、物語の中での立場を考えながら衣装を考えることは、おしゃれのための服と衣装の違いを体感しました。

アート・デザイン表現学科 **アートプロデュース表現領域**
www.j-ad-ap.com



去る5月19日、毎年恒例の「初夏のミュージアムツアー」を行い、本学ゆかりの地である佐倉市を訪ね、佐倉順天堂記念館や川村記念美術館等の見学を行いました。また、7月のオープンキャンパスでは、ミュージアムエデュケーション演習Iにて2年生が制作した「だれでも卓球台」を1号館前に設置し、多くの来場者の方楽しんでいただきました。



短大 **美術コース**
joshibi-tandai.net



2年生の授業「造形思考2」では抽象絵画について学びました。1人100枚以上のドローイングを積み重ね、具象絵画とは違う切口で自分と対峙し、それぞれに悩みながら自分自身の中にある表現の源を探る良い授業となりました。この経験は卒業制作にも役立つことでしょう。

短大 **デザインコース**
joshibi-tandai.net



短大デザインコース スペース2年次、実際のスケールで空間を演出する授業です。実寸での空間デザインは模型ではわからないディテール、素材感の大切さを教えてくれます。またグループ制作からは、同じ目標に向かい、一緒に知恵を出し制作する体験を得ることができます。ともに卒業制作へつながら大切な経験となりました。

学生デザインルーム



学生デザインルームは、2012年に立ち上げた大学内にあるデザイン事務所のよう位置づけです。アートディレクターの斉藤いづみ先生のもと、常時30名ほどの学生が所属しています。グラフィック、プロダクト、webのジャンルの「仕事」を



学内外から発注を受け仕事としてデザインを体験します。毎年、相模原市、杉並区や企業などから20件ほど依頼を受けています。伊勢丹相模原店のファイナルアートプロジェクトでは企画・デザイン・ワークショップなど全般を担当しました。

学生生活

3/13 卒業式



3月13日函中野サンプラザにて、2018年度の学位修了証書授与式が挙行されました。
特撮部による先輩をおくる後輩たちの姿も見られました。



中野
サンプラザ

4/9 入学式



4月9日函中野サンプラザにて平成最後の入学式が挙行されました。
会場1階に設けられたニケの会のブースでは、新入生・保護者の方たちの記念撮影スポットとして賑わっていました。





杉並キャンパスの
アイドル
しーちゃん



5/25-6/23 球技大会



球技大会を相模原5月25日(土)、杉並6月23日(日)に開催。今年は、少し参加者が少なめでしたが、相模原139名、杉並79名参加。それぞれ、卓球、バドミントン、バレーボールのほか、お楽しみゲーム(吹き矢)も実施。ニケの会からは、昨年と同様参加賞としてバック or クリアファイル(球技大会ロゴ入り)・ドリンク・お菓子が配られました。

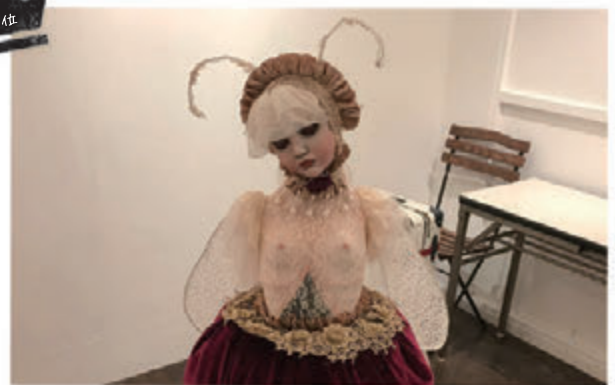


女子力展・アートコンペ

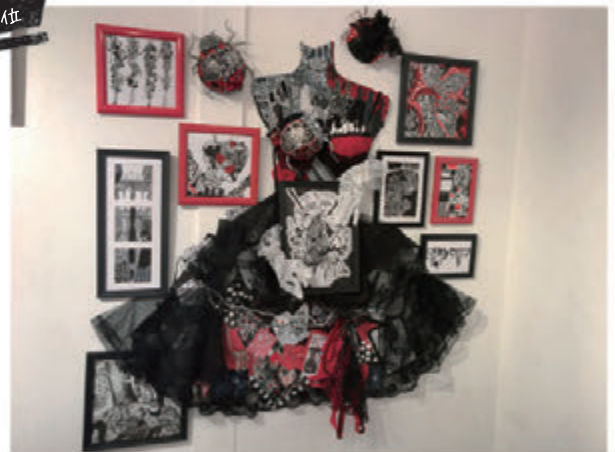
9/6~8 女子力展



今年で3回目となる原宿「デザインフェスタギャラリー」での女子力展。昨年の1.5倍の300名超の学生が参加。『作品展示の経験を通して他者・社会との繋がりや関係性を学ぶ』こともこの展示の目的のひとつ。作品展示の他、手作りアクセサリーの販売、パフォーマンス型の作品展示など様々な方法でイベントを盛り上げました!



大島 未鈴さん「白の祭典」
こういうのって可愛いですよね。



西野 春花さん「Girl's rule」
女の子がもつ力、それは美しく綺麗とかではなく、秘めている恐ろしく賢く黒く醜いものではないでしょうか。私は表面上の女の子ではなく、女の子の中の暗黙の了解の様なものを表現しようと思い、この作品を制作しようと思いました。

原宿「デザインフェスタギャラリー」

お知らせ

女子美と学生を応援する保護者と教職員の会「ニケの会」が運営する

ニケカフェのお手伝い募集!

申込締切
10/20日
まで



女子美祭(学園祭)期間 2019年10月26日(土)・27日(日)

女子美祭期間(10月26日(土)・27日(日))に、「ニケカフェ」が相模原・杉並の両キャンパスオープンします!カフェの運営を手伝ってくださる保護者を募集します。是非、ご協力をお願いします。お手伝いしてくださる方は、下記のWeb申込みフォームよりお申込みください。

お申し込み専用フォーム

<https://forms.gle/JcUMcdDRxymUtmdM9>



保護者対象 進路・就職説明会

2020年3月7日(土)

女子美術大学 杉並キャンパス

10時30分～11時30分

院1年、学部1～3年、短1年生の保護者対象

会場 7号館2階7201教室

内容

- ・2021年4月入社予定学生の採用選考スケジュール
- ・直近の本学学生の就職企業/職種/状況等(全体)(学科専攻別)
- ・内定学生体験談

院2年、学部4年、短2年、専攻科生の保護者対象

会場 6号館1階6101教室

内容

- ・3月以降の求人情報について(採用実績のある業界・職種等)
- ・本学卒業後の進路支援体制について

※申し込み不要

ニケの会設立10周年 記念グッズ



女子美と学生を応援する保護者と教職員の会「ニケの会」は、本年、設立10年を迎えます。

これを記念しグッズを作成しました。

チケットケースにドリップバッグコーヒー2つが入ったセット(500円)を、女子美祭・10周年記念講演会の際に販売します。ぜひ、この機会にお買い求めください。



「チケットケース」

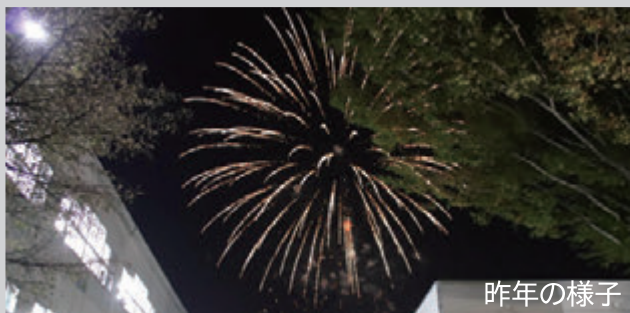
展示会のチケットやダイレクトメールが綺麗なまま持ち運びできるオシャレなケースです。

「ドリップバッグコーヒー」

ニケカフェとして女子美祭で提供しているニケの会オリジナルコーヒーがドリップバッグコーヒーになりました。



デザイン：李 元迪さん (大学院デザイン専攻1年)



昨年の様子

相模原

2019女子美祭テーマ
あたし元年
10月25日(金)・26日(土)・27日(日)
18時(展示17時まで)

杉並

2019女子美祭テーマ
とーんとくる
10月25日(金)・26日(土)・27日(日)
18時(展示17時まで)



デザイン：伊藤 飛鳥さん (短大デザインコース2年)



昨年の様子

特別公開講座 「宇宙・人間・アート」

9月16日(月)・祝～12月23日(日)

女子美術大学 杉並キャンパス 7201教室

16時20分～17時50分 (16時開場予定)

日程	講師名	締切日
10/21(月)	マーラ・セルベット先生	10/14
11/11(日)	吉村作治先生	11/4
11/18(日)	イルカ先生	11/11
11/25(日)	いせひでこ先生	11/18
12/2(日)	萩尾望都先生	11/25
12/9(日)	山崎直子先生	12/2
12/16(日)	オレグ・ミトロファノフ先生	12/9
12/18(水)	森永邦彦先生	12/11
12/23(日)	重松久恵先生	12/16

定員になり次第締切とさせていただきます。

※上記の予定は変更となることがございます。
詳細は下記のホームページをご参照ください。
<http://www.joshibi.net/ad/koukai/uchuart/>



申込み
フォーム

JAM 女子美アートミュージアム・ ギャラリーニケ展覧会スケジュール

JAM 女子美アートミュージアム(相模原キャンパス)

10:00～17:00(入館は16:30まで) 日・祝日・展示替期間 休館

- 第41回 造形「さがみ風っ子展」
10月25日(金)～11月2日(日)
- 女子美染織コレクション展Part8 コプト
11月13日(日)～12月21日(日)
- 2019年度女子美術大学退職教員記念展
2020年1月8日(日)～1月28日(日)
- 2019年度女子美術大学大学院博士前期課程 修了制作作品展
2020年3月8日(日)～3月12日(日)

女子美ギャラリーニケ(杉並キャンパス)

10:00～17:00 日・祝日 休廊

- 第9回百年丹青縁展 中日国際交流書画展
9月17日(日)～10月4日(金)
- 女子美スピリッツ2019 岡田節子展
10月11日(金)～11月1日(日) ※10月27日(日)は特別開廊
- 第12回 五大学合同写真展 ○(まる)展
11月8日(金)～11月22日(日)
- 2019年度女子美術大学退職教員記念展
11月29日(日)～12月18日(日)
- 女子美術大学 AP(アートプロデュース表現領域) 卒業・修了制作展
2020年1月17日(日)～1月28日(日)
- 2019年度女子美術大学大学院博士前期課程 修了制作作品展
2020年3月8日(日)～3月12日(日) ※会期中無休



女子美術大学二ヶの会事務局（校友室）

〒252-8538 神奈川県相模原市南区麻溝台1900

TEL 042-778-6111

FAX 042-778-6667

Eメール nikenokai@venus-joshibi.jp

ホームページ www.pcs.co.jp/nike/



TENTH